

世界保健デー ～ Our planet, our health ～



那覇市保健所 所長 仲宗根 正

4月7日は世界保健デーです。今年のスローガンは「Our planet, our health」となっています。本稿では「our health」に焦点を当てたいと思います。

新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）による健康リスクは、ワクチン、治療薬、ウイルスの弱毒傾向等により減弱しています。しかし、新型コロナの持続的な収束は見通せず、その健康リスクが引き続き存在することを受容しなければなりません。そして断続的な流行が長引けば長引くほど、新型コロナ以外の健康リスクが大きくなります。新型コロナ以外の健康リスクとは行動自粛に伴う生活習慣病の悪化や、受診・受検控えによる診断の遅れや治療の遅れに伴うものが代表的です。広義では経済的困窮による心身の健康悪化も含まれます。

経済的困窮による健康リスクへの処方箋は経済対策だと思います。門外漢ですが、緊縮財政ではなく積極財政が必要ではないでしょうか。David Stuckler や Sunjay Basu¹⁾ などの学者らが、各国の新型コロナ経済政策を分析していると思われまます。果たして日本の経済対策は世界的にみて成功側になるのか、その分析結果を待ちたいと思います。蛇足ながらソ連崩壊後、ロシア経済は崩壊し、GDPが2/3以下に縮小、さらに死亡危機、特に男性の寿命短縮（酒害が主因と思われる）を招いたようです²⁾。今後、ロシアはそれを上回る健康危機を経験するのではないのでしょうか。脱線しました。

私たち医療従事者は医療分野の健康リスクに引き続き対峙しなければなりません。今回の新型コロナ禍で改めて認識されたのは全体的な医療連携の力だと思います。その力の根源は医療従事者です。最強の処方箋だと思います。

医師法、保健師助産師看護師法、薬剤師法、歯科医師法、獣医師法、臨床検査技師法、診療放射線技師法の第1条には「公衆衛生」が謳

われています。すなわち、私たち医療の専門職は「公衆衛生」でつながっている仲間なのです。さらに、その「公衆衛生」は最高法規・憲法第25条に謳われています。

救急救命士法、臨床工学技士法、理学療法士及び作業療法士法、視能訓練法、義肢装具士法、言語聴覚士法、歯科衛生士法、歯科技工士法、精神保健福祉士法の第1条には「医療」や「衛生」、「保健」が謳われています。

私たちにはこれらの仲間に加えて最強の仲間がいます。

カミュは、ペスト＝不条理との不断の戦いの中で、市の官吏・گرانを「依然として変わることなく、保健隊の必要とする集計と統計をやり続けていた」「なすべきことだけをなそうと、律儀に努めていた」「まさに微々として目立たぬヒーロー」と評しています²⁾。今回の新型コロナ禍でも、那覇市の事務職は変わることなく、なすべきことを律儀に務めています。沖縄県の事務職もそうでした。何度かご一緒する機会のあった沖縄県医師会、那覇市医師会の事務職の方々も同様でした。私は直接触れる機会は少なかったのですが、医療機関の事務職の皆さまも同様でしょう。ロジスティックス含めて事務方の支援がなければ保健医療はいとも簡単に崩壊すると思います。彼らは私たちの最強の仲間です。

「our health」を守るのは「we」です。これからも、新型コロナや多死社会にひるむことなく、私たちの不断の力をもって「our health」を守っていきましょう！

参考資料

- 1) David Stuckler & Sunjay Basu. The Body Economic: Why Austerity Kills. 邦題：経済対策で人は死ぬか？
－公衆衛生学から見た不況対策－（訳：橘明美、白井美子）草思社
- 2) Albert Camus. La Peste. 邦題：ペスト（訳：宮崎嶺雄）新潮文庫